

岡部定一郎「福岡城寸描」(5)

1. 福岡城の構え



福岡城の名称について

慶長年間、今から400年余前の頃、今ある福岡城を中心に福岡城の総構えという言葉で、攻める・守るに難く、暮らしあは博多商人との共存共栄を計るなど、福岡の都市構成を十分に配慮して、慶長6年(1601)年に着手した。

この福岡城づくりの「新城」は、初代藩主黒田長政自身が設計し、黒田24騎の一人野口佐助(一成)(※1)を普請奉行に命じて、7年の歳月をかけて築城した。

筑前の国の藩領としては、15郡(※2)、当時は50万余石を領した。そのための総構えは、当時の15郡にまたがる福岡藩領である。

福岡城総構えの総称「福岡」という名の由来は、黒田家のふるさと備前長船の「福岡の市(いち)」をそのまま名付けたとか、「福を呼ぶ丘」にしたいとか言われている。



(※1)野口佐助(1559～1643)

出身は播磨国加古郡野口村。父は浄金という僧で、如水の囲碁仲間。17歳で出仕し、数々の武功をたてる。筑前入国後は3000石を領し、猛者ばかりを集めた百人組を預けられた。

また福岡築城の普請奉行を務め、石積みの天才と賞賛される。妻は母里太兵衛の妹。

85歳で没。墓は福岡円福寺。

二代目以降は500石に厳封され明治に至る。

(※2)福岡藩領15郡(幕末を基準)

- ・遠賀郡 ・鞍手郡 ・夜須郡 ・御笠郡 ・那珂郡 ・席田郡 ・宗像郡 ・糟屋郡
- ・上座郡 ・下座郡 ・嘉麻郡 ・穂波郡 ・怡土郡 ・志摩郡 ・早良郡

